

先生方の
様々なギモンに答えます!!



? 5年生社会科の
特徴って? (p.6)

? 4年生までにどのような
資料に触れていますか?
(p.7)

? 教科書にある各資料の
特徴も教えてください。
(p.8)

トリセツ!

torisetsu

教科書資料を読み解くために



? 4年生と5年生の自然災害単元の
違いは何ですか? (p.11)

5年

日文的Webサイト

日文 🔍



CONTENTS

- 3 トリセツ! 巻頭言
はじめに
- 4 論説
社会的事象の見方・考え方が働く学習の工夫を通して
社会科の授業改善を図るには
- 6 教科書授業解説
社会科では「資料に語らせる」
- 7 4年生社会科や他教科とのつながりを意識して
- 8 資料の種類・特徴とその読み取り
- 9 学習問題づくり
- 10 社会科は単元で考える
- 11 4年生単元「自然災害」との違い

巻頭言、論説 (p.3-p.5)

● 植松 利晴 (うえまつ としはる)

大阪教育大学 非常勤講師。
奈良市立小学校教諭から奈良県教育委員会事務局 (指導主事) に勤務。その後、奈良市立小学校教頭、施設一体型小中一貫教育校長、奈良県小社研では会長を歴任 (現顧問)。帝塚山大学教育学部講師を経て、現在、大阪教育大学非常勤講師をはじめ、6校で非常勤講師として勤めている。



教科書授業解説 (p.6-p.11)

● 山方 貴順 (やまがた たかのぶ)

千里金蘭大学 講師。
奈良市立小学校教諭として16年間、2校に勤務。官製研究会である通称「奈良県小社研」では、事務局長や学年部長を歴任。大学院研修制度のもと、大阪教育大学大学院教育学研究科修了。現在、「授業で勝負できる教師を育てたい」との想いを抱き、教員養成に励んでいる。



はじめに

令和4年度に実施された学習指導要領実施状況調査 (国立教育政策研究所) の分析結果が令和7年7月に公表された。この調査は、小学校社会科における教育現場の現状を明らかにし、今後の指導改善に向けた基礎資料として大きな意義をもっている。

今回の学習指導要領の改訂にあたり公民としての資質・能力の基礎の育成に向けて「問題解決的な学習活動の充実を図ること」が重視されていることをふまえ、分析結果から次のような成果と課題が明らかになった。

<相当数の児童ができている点> (おおむね 80%以上)

- ・資料から問いを見いだすこと
- ・複数の資料から情報を読み取ること

<課題があると考えられる点> (おおむね 60%未満)

- ・予想を確かめるために調べることを見いだそうとするなど、学習計画を立てて問題解決の見通しをもとうとすること
- ・疑問や予想をもとにして学習問題を考えること
- ・学習したことを関連づけたり総合したりして社会的事象の特色や意味を考え、自分の言葉で表現すること
- ・根拠や理由を明確にして自分ができることを選択・判断しようとする

<教師オンライン質問紙調査より>

- ・問題解決的な学習については、教師、児童ともに意識が浸透してきていると考えられるが、「学習したことをもとに、社会への関わり方を選択・判断したりする」「社会的事象の見方・考え方」を意識して指導するなどの指導については、肯定的な回答の割合は、他の項目に比べて低く、課題があると考えられる。

社会科の目標達成に向けた実践状況や課題、児童の学びに対する意識や教師の指導体制などをふまえ、社会科の授業づくりの一層の工夫・改善を図ることが求められている。

そこで、本稿では、先生方が社会科の日々の授業で使っている最も身近で基本的な教材である教科書や副読本を取り上げ、効果的かつ柔軟な活用の仕方について解説する。焦点をあて、社会科授業の質を高めるための具体的な手立てについて解説する。中学年では誰もが一度は悩んだり疑問をもったりしたことがある教科書と副読本の使い分けのポイントやコツについてわかりやすく紹介し、高学年では問題解決的な学習の流れと使い方について説明する。そして、実践事例を手掛かりにして日頃の授業を見直し、工夫・改善を図るきっかけとなり「問題解決的な学習指導」「社会的事象の見方・考え方を働かせた指導」の一層の充実が図られることを期待したい。

社会的事象の見方・考え方が働く学習の工夫を通して社会科の授業改善を図るには

【小学校社会科の授業づくりで求められる基本】

社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決的な学習（課題を追究したり、解決したりする活動とプロセス）を通して行う。

ステップ01 社会的事象の見方・考え方とは何か。基本的な考え方を捉え直す。

【社会的事象の見方・考え方とは】

「社会的な見方・考え方」は、小学校社会科、中学校社会科において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」であると考えられる。そして、「社会的な見方・考え方を働かせ」とは、そうした「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより児童生徒の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくことを併せて表現している。 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編 p18（太字は筆者）

見方 社会的事象を見たり、考えたりするときの視点

社会的事象のもつ特色や意味を捉えるときに「どこを見たらいいのか」「何を見たらいいのか」という着目する「視点」と「どのように考えたらいいのか」という方法である。

考え方 問題解決のための具体的な方法や手立て

「社会的事象の見方・考え方を働かせる」とは、これらの視点や方法を用いて調べ、考え、表現して、理解したり、学習したことを社会生活に生かそうとしたりすることである。

空間軸（位置や空間的な広がり）

時間軸（時期や時間の経過）

社会関係軸（事象や人々の相互関係、因果関係）

比較・分類する

いわゆる思考スキルの考え方である。そこで、目的や内容に応じて思考ツールを効果的に活用することで児童の思考の見える化を図ることが大切である。

関連づける

総合する

(資料1) 思考スキルの活用

ステップ02 社会的事象の見方・考え方を働かせた学習を通して2つの力を高めることが大切である。

ポイント1 社会的事象の見方・考え方を働かせた学習によって育みたい2つの力

社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力

社会的事象の見方・考え方
「空間軸」(位置や空間的な広がり)
「時間軸」(時期や時間の経過)
「社会関係軸」(事象や人々の相互関係)

社会に見られる課題について社会への関わり方を
選択・判断する力

【3つの視点】

「分布、地域、範囲」
(位置や空間的な広がり)などを問う視点

「起源、変化、継承」
(時期や時間の経過)などを問う視点

「工夫、関わり、協力」
(事象や人々の相互関係)などを問う視点に着目することが大切である。

見方・考え方が働く「問い」の設定

社会的事象について調べて、その様子や現状などを捉えることができる「問い」を設定することが重要である。

• どのような違いや共通点があるかなどと、比較・分類したり、総合したりする。
• どのような役割を果たしているかなど地域の人々や国民の生活と関連づけたりする。
考え方(方法や手立て)を効果的に活用して考えたり、選択・判断したりすることが大切である。

ステップ03

児童自ら社会的事象の見方・考え方を働かせて問題解決を図る単元デザインが重要である。

どのような視点や方法を働かせることが大切か考え、教材の開発、吟味、分析を行い、社会的事象の見方・考え方を問いや資料、学習活動などに含まれるように計画することが大切である。

例えば、「分布」に着目できる資料を提示して、「どこに、どのようなものがあるのだろうか」と問えば、児童自ら社会的事象の見方・考え方を働かせて社会的事象の意味を考えていくようになる。このような教師のしかけが重要である。教師が意図的、計画的に単元デザインをすること、さらに、社会的事象の見方・考え方を繰り返し働かせるように単元デザインすることで、児童の社会的事象の見方・考え方が一層鍛えられていくのである。



(資料2) 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査

ポイント2

社会的事象の見方・考え方が働く「問い」を設定し、構造化を図ることが重要である。

社会的な見方（視点）が働く「問い」の例

【空間軸（位置や空間的な広がり）】

• ○○が盛んな地域はどこにどのように広がっているのだろうか。
• なぜ、この場所に○○が集まっているのだろうか。
• 日本各地の気候の特徴はどのような自然条件(位置や地形)によって決まるのだろうか。

【時間軸（時期や時間の経過）】

• ○○はいつから、どのような理由で始まったのだろうか。
• ○○の前と後で人々のくらしはどのように変化したのだろうか。
• なぜ、変わることなく、今もずっと続いているのだろうか。

【社会関係軸（事象や人々の相互関係、因果関係）】

• どのような工夫や努力、願いがあるのだろうか。
• どのような原因で○○になったのだろうか。
• なぜ、○○と■■が連携・協力する必要があるのだろうか。

【選択・判断】

• 環境を守るために自分たちにできることは何だろうか。
• 自然災害の被害を減らすために私たちは何をすべきか。

問いの構成を明確にする単元デザインのポイント

単元の目標

単元を貫く学習問題

視点に着目させる教師のしかけ(資料・発問)が重要

問い① 見方・考え方

児童の見通し(問いと結びついているのか)

問い② 見方・考え方

どうしてこの問いが必要なのか。

問い③ 見方・考え方

問いの役割に応じた資料や学習活動なのか。

問い④ 見方・考え方

この問いを解決することで学習問題の解決につながるのか。

問い⑤ 見方・考え方

この問いの順番、タイミングでよいのか。

問題解決的な学習過程において「社会的事象の見方・考え方が働く問い」を意図的、計画的に設定し、それぞれの問いの意味や目的、役割、必然性、タイミング、関連性を明確にしたうえで、問いの連続性に着目して問いを構成し、単元全体をデザインすることが大切である。

ステップ04

社会的事象の見方・考え方が働く学習の工夫を通して社会科の授業改善を図る。

【手立て】

内容(2)「我が国の農業や水産業における食料生産」の学習では、社会的事象の見方・考え方を働かせ、食料生産の概要について、例えば、どこでどのようなものが生産されているか、生産量はどのように変化しているか、外国とどのような関わりがあるかなどの問いを設け調べたり、食料生産と国民生活を関連づけて考えたりすることが大切である。例えば、昨今の米不足、食料品の値上げ、食品ロスなどの具体的事例を取り上げることが考えられる。

実践事例
小単元「これからの日本の食料生産」



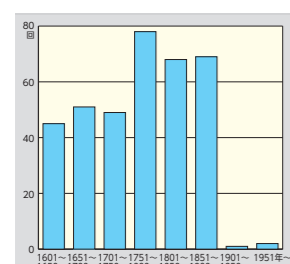
(資料3)

実践事例 社会的事象の見方・考え方がより有効に働き、深い学びへと導くよう問題解決的な学習の各段階においてロイロノートを活用して根拠に基づいた自分なりの考えを表現し、個々の児童の思考の見える化を図るとともに他の児童と考えを交流する場を設け新たな考えや問いをつなぐ仕掛けを工夫している。「ふかめる」段階では、輸入など外国との関わり、食料自給率の変化、生産量や働く人の変化などに着目して、「これからの日本の食料生産は安心できるものなのだろうか?」という中心概念に迫る問いについてねり合う活動を通して思考を深めるようにした実践である。

社会科では「資料に語らせる」



教科書 p.42-p.43



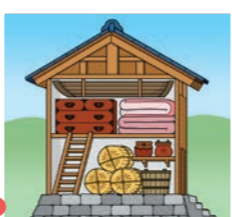
① 水害の発生回数(1601-1950年)の推移(木曾川下流河川事務所資料)

時期	治水工事前 (1890-1899年)	治水工事後 (1900-1909年)
死者	316人	10人
けが人	732人	16人
水につかった家	10万2481軒	1万2838軒
潰れたり、ひび割れたりした	1万5436軒	314軒
屋根が壊れ、電線の機能が失われたか所	1821か所	228か所
流された田畑	約 3304 ha	約 936 ha

② 明治時代の治水工事後の洪水の被害(木曾川下流河川事務所資料)



③ 被災された水屋



④ 水屋の中の様子

みなさんたちは、輪中に住む人々の水害からくらしを守るくふうについて、津市のパンフレットや図書室の本などでさらに調べました。

見方・考え方
1887年からの治水工事に着目して、くらしの変化について考えよう。

輪中に住む人々は、どのようにして水害からくらしを守っていたのだろう。

水害とむき合う人々
みなさんたちは、①と②の資料を見て、気になることを出しました。治水工事前と後では、被害が大きく減っていることがわかるね。どうしてだろう。

治水工事
水害などおこらないように、堤防を築いたり、築くしたり、川の流れを直すように変えたりする工事のこと。

津市歴史民俗資料館の館長さんの話
輪中の人々は、大雨のたびにおこる水害になやまされてきました。堤防が切れると、輪中は水に流されてしまいます。そこで、270年ほど前に、幕府に命じられた薩摩藩(今の鹿児島県)の武士と地元の農民が、治水工事をおこなった。

見方・考え方
治水工事前と治水工事後のようすについて、被害のようすに着目して調べよう。

しかし、その後も水害が続ききました。国は、1887(明治20)年から、大規模な治水工事はじめました。1900年におおきな工事が完成し、1912年に全ての工事が終わりました。この工事によって、水害の回数は大きく減りました。

輪中に古くからある家は、堤防が切れても家が水につからないよう、高く積み上げた石がきの上に建てられています。水害のときのひなん場所である水屋という建物の多くは、3m前後の高さがある石がきの上に建てられていました。

水屋の中には、米・みそ・衣類などの毎日のくらしに必要なものがあり、7、8人が1、2か月くらすことができる量を保存していました。また、水屋のき下には、ひなん用の舟を備えておくところもありました。

輪中に住む人々は、治水工事のおかげで、安心して暮らすようになったんだね。

治水工事後も、自分たちの命や家や田畑を守るために、いろいろくふうをしているんじゃないかな。



⑤ 水屋のき下にあるひなん用の舟
洪水がおこると、1階の天井より付近まで水が押し寄せると、のき下のような高いところに舟を備えていました。

疑問1 5年生社会科の特徴って?

「資料が多い!」
5年生社会科の大きな特徴の一つです。関連して、資料をうまく読み取れず、「社会科が難しくなった/苦手だ」と感じてしまう子どもが増えてしまう、という特徴も挙げられます。
本誌は、「トリセツ」との誌名の通り、5年生教科書の使い方を、特に資料に焦点を当てて提案します。本誌の提案によって、先生/子どもがともに、社会科への苦手意識が払拭されればうれしく思います。

コツ1 社会科では「資料に語らせる」

社会科には「資料に語らせる」という格言があります。これは、
大事なことを教師が口にせず、
・「この資料からわかることは何ですか?」
・「～さんの意見は、どの資料から考えたの?」
等と資料をもとに意見を述べる
ことの重要性を述べたものです。
子どものためをと思い、解説を多くされる先生もおられます。しかし、ときには上の困みのように問うてみてください。日々積み重ねることで、児童の資料を読み取る力がつき、先生の解説が少なく済むようになります。

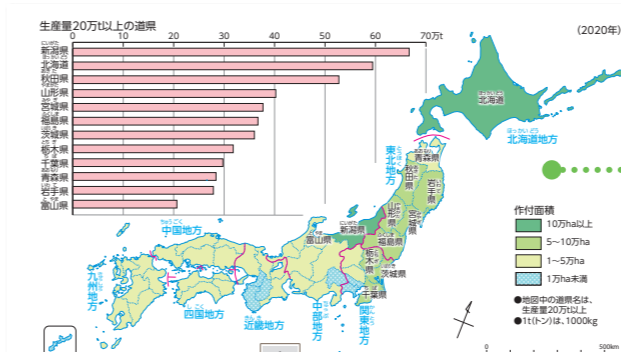
コツ2 教科書のねらいや意図を考えて!

一度、教科書の編集者になったつもりで、なぜこの資料が掲載されているのか、理由を考えてみてください。上の見開きを例にすると、
資料 掲載されている理由
①② 治水工事の必要性・効果
③④⑤ 水害に備えたくらしの工夫
資料が掲載されている理由は上の表のように考えられます。資料一つひとつに、掲載の意図があります。そこで教材研究の際に「この資料は何を語らせるためのものか?」という視点でも、教科書の資料を見てみてください。

4年生社会科や他教科とのつながりを意識して

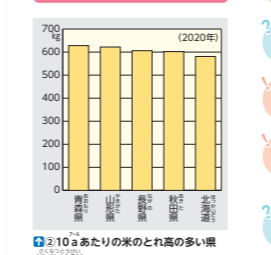


教科書 p.78-p.79



① 米の生産量と作付面積(作物統計ほか)

米は、どこでさかんに作られているのだろう。



② 10戸あたりの米のとれ高の多い県(作物統計)

米の生産地はどこ
りこさんたちは、①から③の資料を調べ、気になることを出しました。

米は、全国で作られているよ。北海道や東北地方、新潟県でたくさん作られているね。

あたたかいところでよく育つねが、なぜ寒いところで作られているのかな。

①と②を見ると、山形県は、米の生産量が多く、10aあたりのとれ高も多いよ。

山形県庄内地方では、特においしいとされる食味特Aの米を2種類も生産しているね。

山形県は、生産量が多いだけでなく、おいしさでも特Aをとるなんて、どのようなみつけがあるんだろう。



りこさんたちは、出てきたぎもんを整理して、学習問題をつくりました。

米作りのさかんな山形県庄内平野では、どのようにくふうや努力をして、よりよい米を作っているのだろう。

学習の計画
●調べたいこと
・庄内平野は、どのようなところなのか。
・庄内平野の米作りと気候や地形には、関わりがあるのか。
・どのように米を作っているのか。
・安全でおいしい米をたくさん作るために、どのようなくふうや努力があるのか。
●調べ方
・教科書や資料集、地図帳、図書館の本で調べる。
・農家の人に電話や手紙、メールなどでたずねる。
・J-Aや山形県のウェブサイトなどで調べる。
●まとめ方
・ノートに表でまとめる。

見方・調べ方
学習の計画を立てる
●いろいろ出てきたぎもんから、調べたいことを決める。
●調べたいことを、どのような順番で調べればよいかみんなで話し合ってから決める。
●調べる方法を決めたり、調べたための資料をさがしたりする。
●調べたことをどのようにまとめるのか決める。

疑問1 子どもたちは4年生までに、どのような資料に触れていますか?

子どもたちは主に社会科や算数科で、次のような資料に触れています。
既習 棒グラフ・折れ線グラフ・表・年表
未習 円グラフ・帯グラフ
※割合は5年算数科で学習

コツ1 社会科用語の言い換えで、資料の読み取りもスムーズに!

「生産」「作付面積」といった抽象度が高い言葉は「1年生でもわかる言葉に言い換えて」等の発問を経て、具体をイメージできる言葉にすると、理解や読み取りもスムーズになります。

疑問2 例えば資料①はどんな手順で、読み取りを進めればいいですか?

子どもたちは主に社会科や算数科で、次のような資料に触れています。
① Q 資料①は何を表したグラフ?
A 米の生産量と作付面積
② Q ピンクの棒が長いと、どういうことがいえるの?
A 米の生産量が多い
③ Q 米の生産量1位/2位/3位はどこ?
A 新潟県/北海道/秋田県
④ Q 日本地図は何を表しているの?
A 米の作付面積
⑤ Q 作付面積上位はどのあたり?
A 主に日本の北のほう
⑥ Q 資料①が伝えたかったことは?
A 米の生産量が多い県は、作付面積も多い
日本の米の生産は北のほうが盛ん
慣れると、①～④のような基礎的な読み取りは省略可能です。

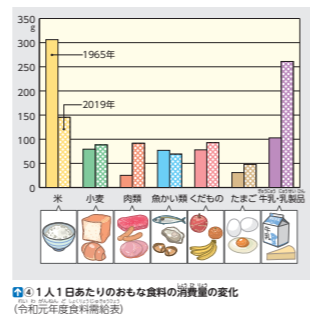
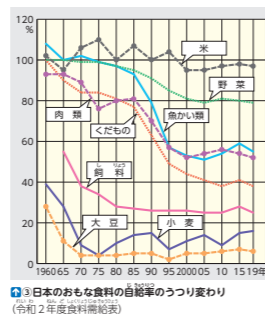
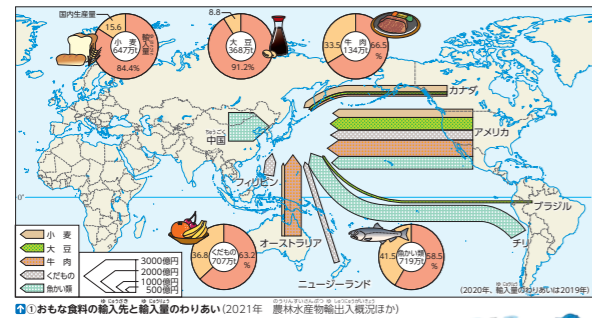
コツ2 上の単元は、4年生社会科と同じ見方・考え方が使える!

4年生社会科最終大単元には、県の自然環境に着目して地域の様子を捉える小単元があります。例えば大阪府では「柏原市のぶどう作り」、奈良県では「五條市の柿作り」です。そこで下のよう問うと、学年をまたいで同じ見方・考え方を働かせることができ、思考につながりが生まれます。
Q ○○県の△△作りでは、何が大事だったの?
A 土地や気候等の地理的条件
Q 山形県の米作りも、大事なことは同じかな。
A 同じ

資料の種類・特徴と その読み取り

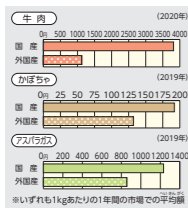


教科書 p.120-p.121



4 これからの食料生産

わたしたちが
食べる食料は、
どれくらい輸入されて
いるのだろう。



食料の輸入先を調べる ひろとさんたちは、産地マップをつくったときに、輸入している食料品があったことを思い出しました。そこで、輸入している食料について話し合いました。

スーパーマーケットに行くと、バナナやキウイ、牛肉など、外国から輸入された食料品を見かけるね。

わたしの家では、国産よりねだんの安い外国産の食料品を買うこともあるよ。

わたしたちが食べている食料品のなかで、どれくらいの量が輸入されているのかな。

①の資料を見ると、小麦や大豆は、その多くを輸入にたよっているね。

ひろとさんたちは、日本の食生活と食料自給率について調べていることにしました。

⑤の写真を見ると、食べ物に米や魚から、パンや肉などに変わっているよ。食生活が変わったのかな。

③のグラフを見てみると、50年ほど前と比べて、特にくだものや肉類、魚かい類の食料自給率が低くなっているよ。

④のグラフを見ると、米の消費量が、50年前と比べて半分ほどに減っているね。⑤のように、今はごはんだけでなく、パンやめんなどもよく食べているからかな。

日本の食料全体の自給率も下がっていたよね。食料自給率が下がっているということは、食料の輸入量が増えているのかな。



⑤食生活の変化 50年ほど前までは和食がほとんどでしたが、今は洋食や中華料理などもよく食べられています。

疑問1 教科書にはどんな資料が掲載されていますか？各資料の特徴も教えてください。

疑問2 このページの資料は、それぞれ何を読み取ればいいのか？

コツ1 つまづきを事前に想定しておくことで、目標に迫りやすくなります。

上の見開きには、様々な種類の資料が掲載されているので、この見開きを例にお伝えします。

資料	資料名	読み取れること
①	円グラフ	割合
②④	棒グラフ	比較
③	折れ線グラフ	複数事項の移り変わり
⑤	写真	具体例

p.6 **コツ2** でお伝えしたように、資料には掲載されている意図が必ずあります。右の **疑問2** **コツ1** も合わせてお読みください。

資料	読み取らせたいこと	想定されるつまづき
①	日本は様々な食料を輸入していること	資料ではなく、自身の家庭における経験から考えてしまう
②	外国産は国産よりも安価なものが多いこと	セールや特売等、自身の経験から考えてしまう
③	多くの食材で自給率が低下していること	自給率の意味や、単位を理解できていない
④	近年の消費量は、米は減少、肉類と牛乳・乳製品は大幅に増加していること	自身の家庭における経験から考えてしまう／輸入や自給率と混同してしまう
⑤	食生活が和食から変化していること(③や④の具体)	自身の家庭における経験から考えてしまう
コメント	資料が掲載されている意図と到達させたい内容をセットで考えることで、授業のゴール(目標)がより明確になります。	資料を読み取る際、過度に自身の経験を加えないことが、正しく読み取る「コツ」です。子どもが好きな「例外探し」となってしまうためです。

学習問題づくり



教科書 p.138-p.139



1 くらしや産業を支える工業生産

日本には、
どのような工業が
あるのだろう。

キーワード
工業
原料や材料を、機械や道具を使って加工し、くらしに必要な製品をつくる産業のこと。

いろいろな工業製品 リこさんたちは、日本の工業製品の分類を、①の資料をもとにして調べてみることにしました。

わたしたちの身のまわりには、食品や服、自動車、冷蔵庫など、たくさんの工業製品があるね。

今まで学習してきたくらしや産業のなかで、工業製品はたくさん使われていたんだね。

分類するときは、材料やつくり方、工業製品の使い方によって分けられればいいのかな。

工業製品は、食品工業、せんい工業、金属工業、機械工業、化学工業などに分けられます。食品、せんい工業などを軽工業、金属、機械工業を重工業といいます。また、重工業と化学工業を合わせて重化学工業といいます。

りこさんたちは、これまで学習したことをもとに、わかったことやぎもんを出し合うことにしました。

わたしたちのくらしや産業は、たくさんの工業製品を支えられているんだね。日本では、どの工業がさかんなのか。

わたさんの工業製品が、日本のどこでつくられているか知りたいな。

工業製品によって、材料やつくり方が違いがたくさんありそうだね。

家の近くにある小さな工場と、大きな工場は、何がちがいのかな。

わたしたちのくらしを支える工業生産は、どこで、どのようにしておこなわれているのだろう。

学習の計画

- 調べたいこと
 - ・工業は、どのような場所ですか？
 - ・どの工業が、さかんなのか。
 - ・工場の大きさによってつくられるものはちがうのか。
- 調べ方
 - ・地図帳や資料集で調べる。
 - ・図書館の本やインターネットで調べる。

工場は、ものを運ぶのに便利な場所にあるのではないかな。

日本は技術力が高いと聞くよ。機械をつくるのが得意なのではないかな。

まな ひろと

疑問1 そもそも学習問題って何ですか？

コツ1 学習問題に対応した資料を使う！

コツ2 抽象的な言葉は、意味の確認を！

学習問題は、問題解決的な学習過程に欠かせないものです。次は典型的な社会科単元の過程です。

単元前半に学習問題をつくり、その解決に向けて、調べたり、考えたりする

学習問題づくりにも、資料の読み取りが必須です。上の見開きを例に、お伝えします。ポイントは

作りたい学習問題に対応した資料を用意すること

だと考えます。右で具体をお示します。

p.139の学習問題を作るために
工業生産がわたしたちのくらしを支えていること

を理解できる資料が必要です。そしてそれはp.138資料①で可能です。展開例をお伝えします。

- ・「食品工業でできたものは、自分の家にありますか？どんなものがありますか？」
- ・「他の工業製品は、家にありますか？」
- ・「みなさんの家に、工業製品がありますね。工業製品について、考えたいことはありますか。」

p.7 **コツ1** 同様、上の見開きにある次のような抽象的な用語は、児童がイメージできているか確認が必要です。

工業/製品/せんい/金属/機械/化学/産業/分類 等

確認といっても、一問一答ではなく、次のように発問にすることも有効です。

- ・産業の例を3つ挙げましょう。(農業/漁業/工業等)
- ・「工業」は教科書(辞書やPCでも可)に何だと書かれていますか。
- ・「原料を加工してつくられたもの」とは何の用語の説明でしょう。(製品)

情報をつくり、伝える

社会科は単元で考える



教科書 p.208-p.209



1 インターネットの利用をめぐるさまざまな問題

情報社会では、どのような問題が起きているのだろうか。



2 あやまった情報によって起るようになった騒動(2020年、東京都) (新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のえいきょうで情報量が不足する)というあやまった情報が、SNSに拡散されました。それを見た多くの人が商品を買った結果、トイレ用ペーパーなどが品不足になる状態が数か月続きました。

情報社会の問題 れんさんたちは、インターネットの利用で、どのような問題が起きているのか調べました。わたしたちの生活にかかせないものになっているインターネットですが、さまざまな問題があります。例えば、でたらめなうわさやあやまった情報が流され、人々を混乱させるできごとがありました。また、自分の名前や住所などの情報がぬすまれたり、きずつくことを書かれたりすることもおこっています。さらに、インターネットを利用しすぎて、健康をそこなうことがあることも社会問題となっています。

生活の一部になっているからこそ、考えるべき問題も多いんだね。



3 インターネットを利用するときの情報のあつまい方の注意点

れんさんたちは、学習のまとめとして、これからわたしたちは、情報とどのように関わっていけばいいのか話し合いました。

必要な情報は必ず確認し、相手と誤らぬよう伝えよう。必要な情報は必ず確認し、相手と誤らぬよう伝えよう。必要な情報は必ず確認し、相手と誤らぬよう伝えよう。

コラム オンライン授業 2020(令和2)年ごろから、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大により、学校での授業も大きく変化しました。学校と家庭をオンラインでつなぎ、双方向でやりとりをしながら授業をおこなうところもありました。

情報社会の発展にともなって、情報機器をどう活用していくのか考えなければいけません。

コツ1 小学校社会科の究極の目標は「公民としての資質や能力の基礎」の育成!

疑問1 デジタルとの付き合い方なら、道徳のようになっていませんか?

コツ2 社会科は単元で考える!

社会科では「公民としての資質や能力の基礎」、平たく表現すると「よりよい市民が備えているもの」が求め続けられてきました。この単元においては、スマホやSNS、情報といった現代的なデジタルとの付き合い方になるでしょう。

公民としての資質について考える際は、単なる意思表示ではなく、社会科の授業で扱った知識(社会認識)を踏まえることが重要です。それを見るためには、理由を問うことが必要でしょう。

両教科の違いは、社会的な理由を大事にする社会科、心情的な理由を大事にする道徳科、と整理できます。ただし、両教科の共通点もあります。下の表に例を示します。ポイントは、明確に区別することよりも、よりよい世の中にしようとする態度を養うことです。

社会科の理由	道徳科の理由
世の中が混乱したり、法律に触れたりするから	法やきまりを守ることは、過ぎやすい世の中につながるから

単元冒頭で学習問題を作り、それを解決するために調べ、そこで得た知識を使って実生活(公民としての資質や能力)について考える、という単元の流れが典型的です。

社会科では、1コマの授業と、単元で考えることの両方が大事です。「どの資料から学習問題を作るか」「解決のためにどんな資料や知識が必要か」のように、「資料に語る」ことを頭に入れつつ、p.4-p.5を参考に単元を意識した教材研究をしてください。

自然災害から人々を守る

4年生単元「自然災害」との違い



教科書 p.240-p.241



1 東日本大震災での津波(2011年、岩手県宮古市) 2 東日本大震災での津波と避難活動の様子(2015年、茨城県常陸市)

1 自然災害から人々を守る

日本では、どのような自然災害がおこっているのだろうか。



3 東日本大震災での津波の被害が大きかった地域(日本地理学会資料)

さまざまな自然災害 ひろとさんたちは、自然災害について、①や②の写真を見て話しています。黒くなった海の水が、車をおし流しているよ。なぜこんなことになったのかな。水が屋根まできているね。②の写真で屋根にのぼっているのは、救助を待つ人かな。今までどおりのくらしにもどるのに、どのくらい時間がかかるのかな。ひろとさんたちは、日本全国でどのような自然災害がおこっているのか調べることにしました。

日本は、自然災害が多い国です。これまでにたびたび大きな自然災害がおこり、被害が出てきました。自然災害にはさまざまな種類があり、どれも人間の命や財産などに対してえいきょうをおよぼします。

台風・洪水・土砂くずれ	大雪	地震(0は、津波による人の被害が発生した地域)
1976 台風第17号および9月豪雨(171人)	1983 大雪(131人)	1978 宮城県沖地震(28人)
1979 台風第20号(115人)	2005 豪雪(152人)	1983 日本海中部地震(104人)
1982 7.8月豪雨および台風第10号(439人)	2010 大雪(131人)	1984 長野県西部地震(29人)
1983 梅雨前線豪雨(117人)	2011 大雪(133人)	1993 北海道南西沖地震(230人)
1993 8月豪雨(79人)	2012 大雪(104人)	1995 阪神・淡路大震災(6437人)
2004 台風第23号(98人)	2013 大雪(95人)	2004 新潟県中越地震(68人)
2011 台風第12号(98人)	噴火	2007 新潟県中越前地震(15人)
2014 広島土砂災害(77人)	1990 雲仙・御嶽山噴火(44人)	2008 岩手・宮城内陸地震(23人)
2018 7月豪雨(271人)	2000 有珠山噴火	2011 東日本大震災(2万2303人)
2019 東日本台風(108人)	2000 三宅島噴火(1人)	2016 熊本地震(273人)
2020 7月豪雨(86人)	2014 御嶽山噴火(63人)	2018 北海道胆振東部地震(43人)

地震がおこると、津波がおこることもあるみたいだよ。台風や洪水なども、毎年のようにおきているよ。噴火や大雪でも、たくさん人がなくなっているんだね。

ひろとさんたちは、話合っているうちに、いつでも、だれでも自然災害の被害にあうかもしれないことがわかってきました。また、自然災害には、地形に関わるものと、気候に関わるものがあることに気がつきました。

そこで、学習問題をつくり、調べていくことにしました。日本の地形や気候と自然災害には、どのような関わりがあるのだろうか。

4 日本で起きたおもな自然災害(令和3年防犯白書ほか)()内は、死者・ゆくえ不明者数。年は災害がおこりはじめた年。

学習の計画 ●調べたいこと ・地形や気候に関わる自然災害には、どのようなものがあるか。 ・なぜ、日本では自然災害が多いのか。 ・くらしや産業へのえいきょう。 ・自然災害から、どのように命を守ればよいのか。

疑問1 自然災害は4年生でも学んでいると思いますが、5年生の自然災害単元との違いは何ですか?

コツ1 おすすめの資料は、実社会の資料であるハザードマップ!

学習指導要領解説社会編 p.96 には、両学年が対比して記載されています。

第4学年	第5学年
<ul style="list-style-type: none"> 自分が住む(都道府)県内で過去に発生した主な自然災害を事例に 県庁や消防団が、自然災害への対処や備えをしていることを通して 自分が住む(都道府)県について理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> 日本で発生した様々な自然災害を取り上げて 自然災害と国土の自然条件との関連を通して 国土の地理的環境を理解すること

「自分が住む(都道府)県を理解すること」に重点が置かれています。キーワードは「県庁」「対処や備え」です。

「自然災害と自然条件の関連」と、「国土の地理的環境の理解」に重点が置かれています。キーワードは「自然条件や地理」「国土」です。

「ハザードマップポータルサイト」(下の二次元コード・教科書 p.251 と同じ)は、全国の自治体のハザードマップを一つの地図で、それも複数の自然災害を重ねて閲覧できます。4年生の学習との接続を考えると、単元の導入にも有効です。まずは児童が住む県を調べ、次に教科書で取り上げている岩手県宮古市等との比較で、左に挙げたキーワードにも迫ることができます。

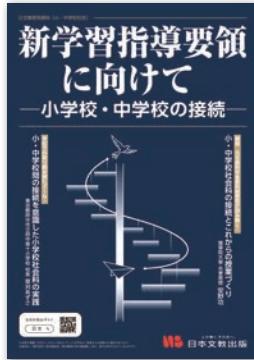


日本文教出版 各種資料のご案内

新学習指導要領に向けて

自由進度学習

小学校・中学校の接続



元文部科学省
教科調査官が解説!



トリセツ!

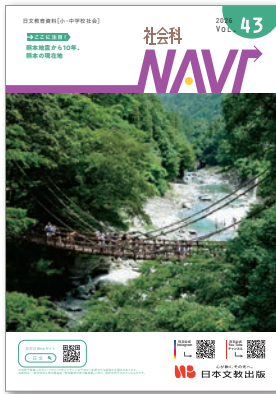
教科書と副読本を使いこなす (3・4年)
教科書を使って脱・講義型授業へ (6年)



先生のギモンに
お答えします!!



社会科 NAVI



小・中学校社会科教科書『小学社会』『中学社会』の機関誌です。
社会科教育の内容にとどまらない魅力的なテーマも掲載し、年3回発行しています。

こちらから
バックナンバーも
ご覧になれます→



新刊

子どもによる紛争解決と社会科
—他者との対立を乗り越えるために—



分断の時代に、他者との対話と協働によって対立を乗り越える社会科教育。
分野横断と、小・中・高を通したカリキュラム構想が見えてくる待望の1冊!

編著 埼玉大学准教授 小貫 篤
A5判 160頁 2,200円 (税込み)

こちらから
Amazonの
注文サイトへ
進むことが
できます→



トリセツ!

教科書資料を読み解くために(5年)

日文教授用資料 [小学校社会]
令和 8 年 (2026 年) 6 月 30 日 発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL : 06-6692-1261
FAX : 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD3111110020

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690